



有償SOの発行と取締役への貸付と  
その背景について

株式会社トリプルアイズ  
(証券コード5026)  
2024年9月3日

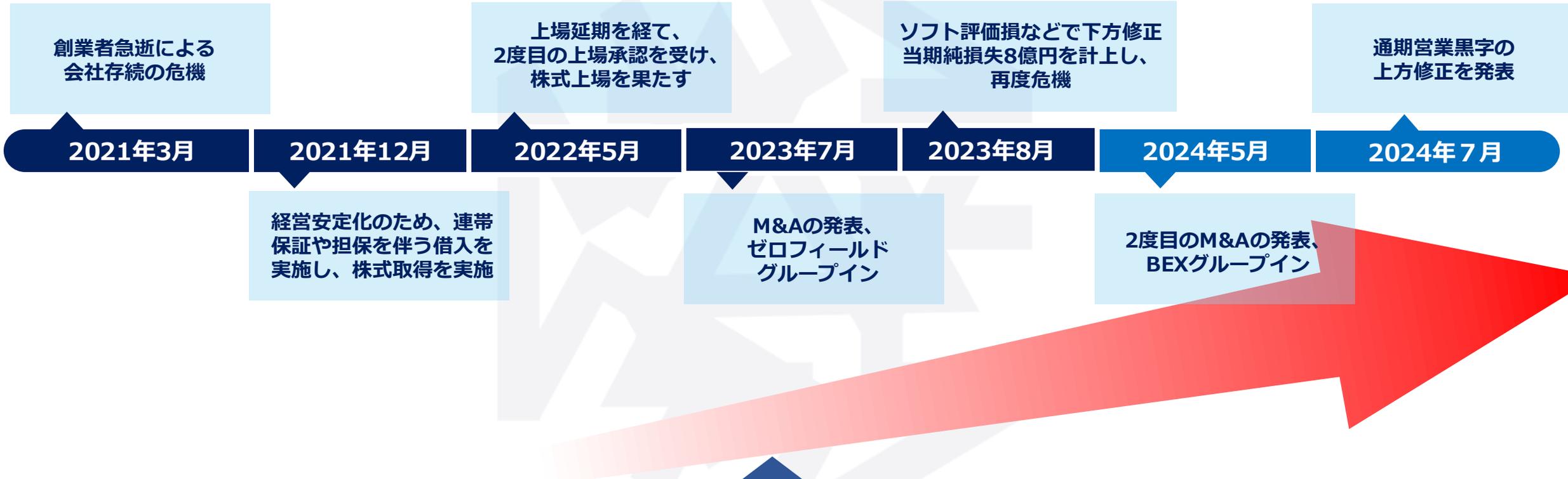
Realize Customize Maximize  
**TRIPLEIZE**

CONTENTS

今回ご説明したい概要

---

## 経営危機から新たな成長フェーズへ



何度も当社は危機を乗り越え、成長基調へ

業績向上、  
企業価値向上  
により強く  
コミット

PL計上の必要のない「株価一定程度下落時の強制行使条項付有償ストックオプション」を今回採用し、業績への影響をケア  
現状当社取締役3名で、2021年12月に取得した2.3%程度の株式を保有しているが、今回の有償ストックオプションの発行により、潜在株式を含めて10%程度の株式を保有するに至り、取締役、執行役員及びグループ会社取締役一丸となって業績向上により強くコミットする

投資家の皆様とともに  
株価下落リスクを共有

「株価一定程度下落時の強制行使条項付有償ストックオプション」を今回採用したことで、株価が一定程度下落した時、権利行使価額(1,405円)での強制権利行使という一定程度の責任を負わせることで、株価下落を招く企業活動を抑制し、株価下落リスクを投資家の皆様とともに共有する

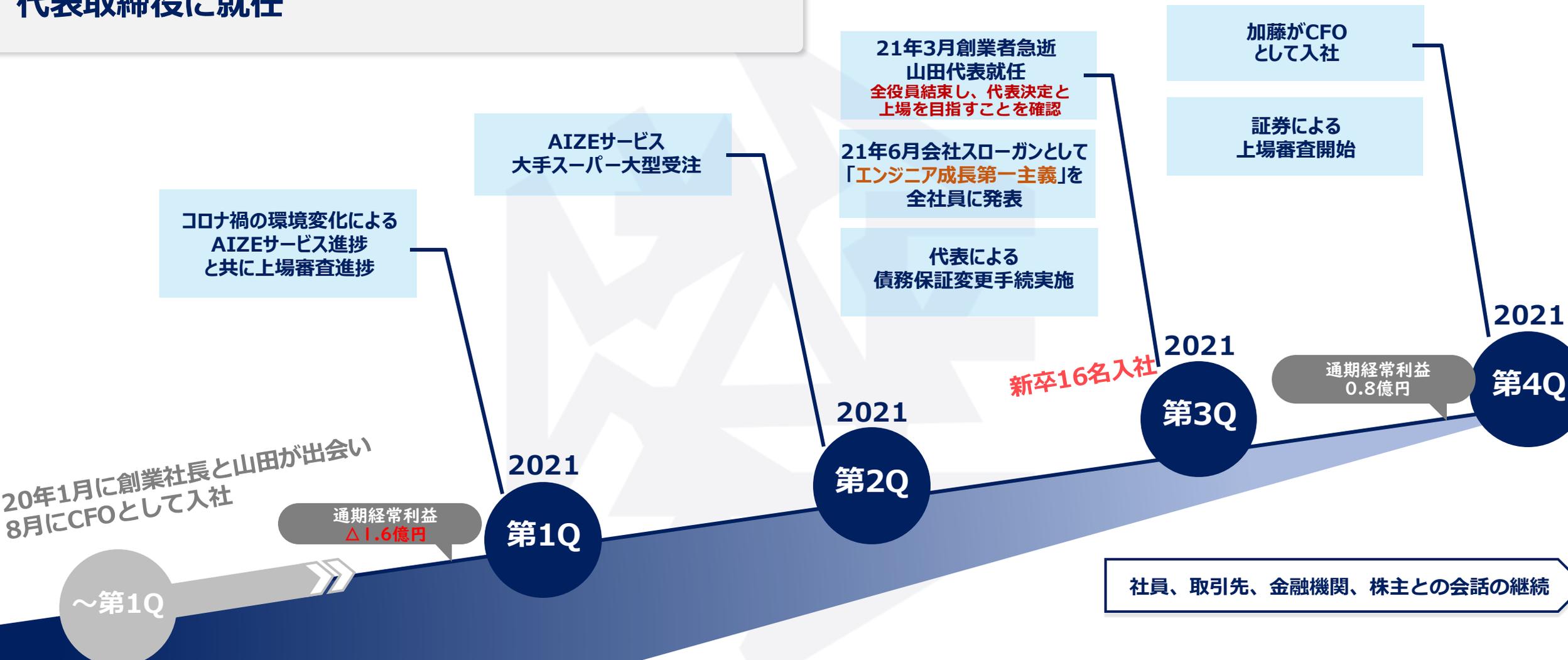
経営への長期  
コミットと  
専念を健全な  
経営に繋げる

株式取得時の借入の返済及び有償ストックオプションのオプション料支払いのため、取締役に貸付を行う。貸付期間を20年にし、退職時の一括弁済条項を設け、また、株式の担保提供だけでなく、債務不履行時の役員報酬の差し押さえも可能という条項を設けることで、上場することがゴールではなく、取締役としての長期コミットを約束

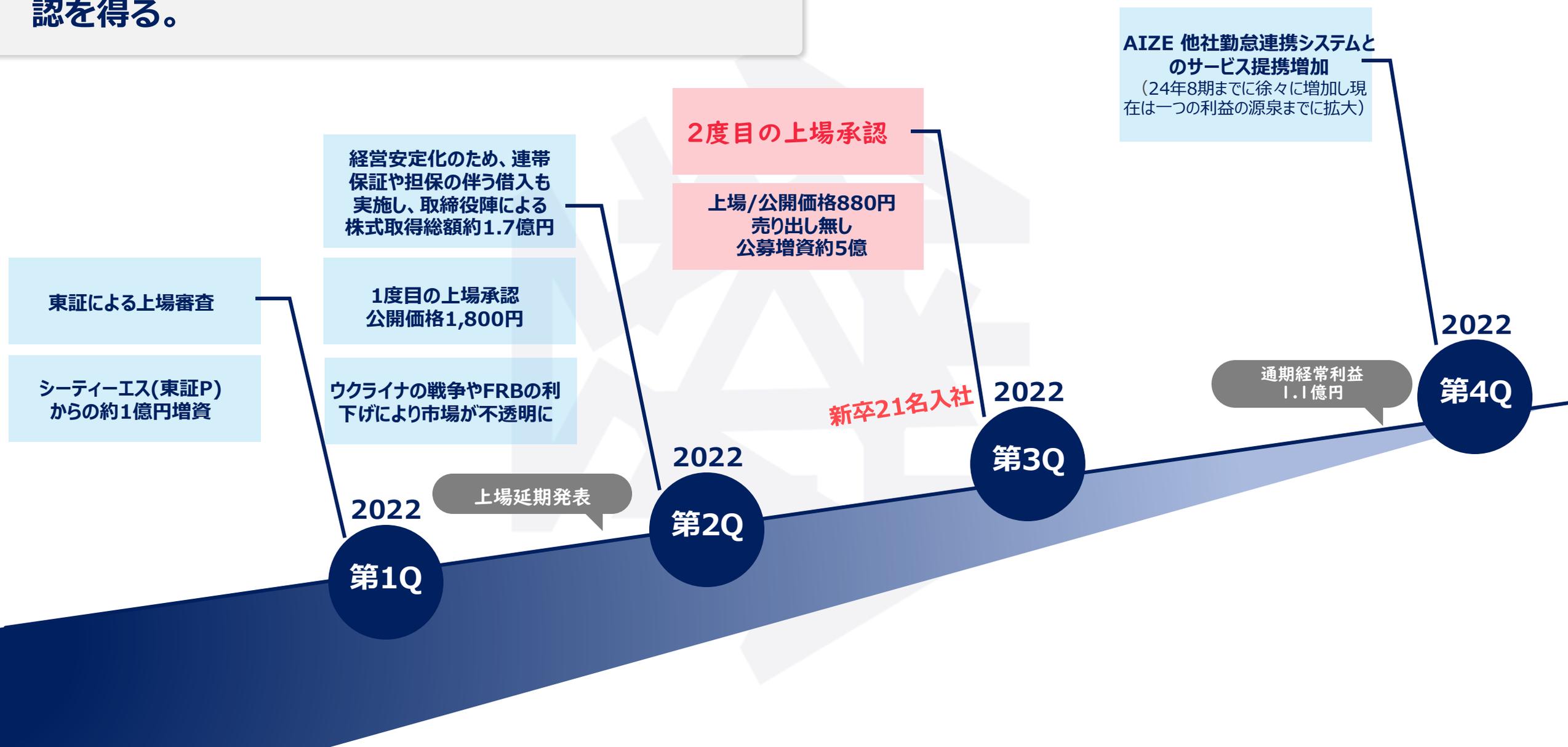
CONTENTS

有償SO発行と取締役への貸付の実行の背景

前代表取締役・福原智の急逝により、山田雄一郎が代表取締役に就任



積年の夢が叶うも。それでも諦めず2度目の上場承認を得る。



経営環境の悪化、投資有価証券評価損等により業績悪化、下方修正へ

事業提携や資本業務提携を積極的に実施

コロナ禍の状況変化による顔認証製品のハード売上の減少

22年10月予定のアルコール検知に関する道路交通法改正予定の延期も重なり、業績下方修正（次頁詳細）

経常利益0.2億円  
⇒△2.0億円  
最終利益0.2億円  
⇒△5.8億円

決算発表後 4/17  
株価最安値591円

延期となっていた道路交通法の改正施行日が決定し、AIZE Breath（顔認証とアルコール検知を組み合わせたサービスに係る市場が拡大する機運に

新卒27名入社

ゼロフィールドM&A発表

M&A手数料計上に伴う2度目の業績下方修正

投資有価証券評価損による3度目の業績下方修正

経常利益△2.9億円  
最終利益△8.2億円

2023

第1Q

2023

第2Q

2023

第3Q

2023

第4Q

2Qの下方修正以降既存事業の利益構造改善に取り組む

ゼロフィールドM&Aスキーム設計

## 2023年8月期 第2四半期決算説明資料より

## 決算概況

## 減損損失、ソフトウェア評価損の計上とその背景

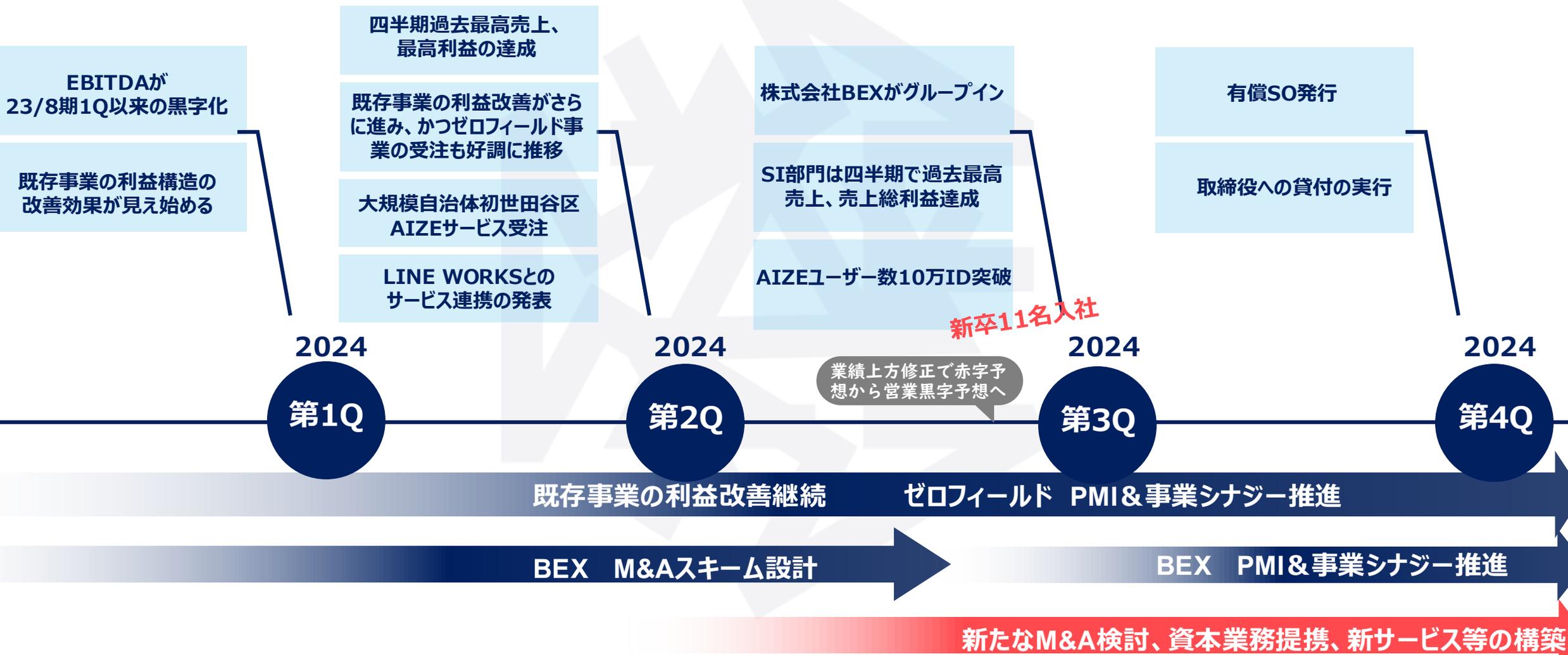
## 6

AIソリューションセグメントにおいて、減損損失324百万円を、ソフトウェア評価損26百万円をそれぞれ計上しております。背景には以下の社会情勢、当社の判断がございます。

- 当社グループの「AIソリューション事業」セグメントにおいて、新型コロナウイルス感染症対策として提供してきた自動検温装置と画像認識技術を結合したサービスに関して、**2023年1月27日に政府により発表された新型コロナウイルス感染症に対する感染症法上の位置づけの変更(2類感染症から5類感染症への変更)**等に伴い、需要の低下に影響を及ぼしております。
- また、当社グループは、**顔認証AIが世の中に欠かせないテクノロジーとして社会に広く実装されるよう**、大手企業含むパートナーとも協働し取り組んでおりますが、当該位置づけの変更に伴い、**人々の生活や行動を変えるシステム実装には当初の想定以上に丁寧な検討を行い、時間をかけることが必要**であり、あわせて、これらに関するシステム実装の規模拡大や収益化も短期の見込み数値として織り込むべきではないと判断いたしました。
- 具体的には、当社グループの当初の想定では、2023年8月期中に、新型コロナウイルス感染症への対策の一環で、マスクを着用した状態でも利用可能な精度を持つ顔認証AIが搭載された製品またはサービスが、大手企業含め広く使われるようになり、当社グループの売上高も増加する前提でございました。
- また、アルコール検知器と顔認証AIの連携サービスにつきましても、**2022年10月に予定されていた改正道路交通法施行が延期し、その再施行を見据えた営業活動を**推進してございました。
- 一方で、当該位置づけの変更に伴い、**当社グループの顧客において、今後の新型コロナウイルス感染症への個人の対応が多様**となる中で、顔認証AIが搭載された製品またはサービスの導入をペンディングまたは見送るケースが発生しております。
- また、複数の顧客へヒアリングを行った結果、再度導入検討を行う際は、単なる新型コロナウイルス感染症対策のための非接触を目的としたものではなく、利便性や効率性の向上等を目的としたケースが多く、顧客での設備投資予算や、当社でのカスタマイズを行う時間の確保等を踏まえると、**当社グループの業績へ織り込むタイミングはこの半年～1年等の短期的なスパンではなく、2年程度かけた中長期的な時間軸であると判断**したため、想定を変更いたしました。

当社グループでは従前より、AIZE部門におけるソフトウェア開発に関する費用(主にエンジニアの人件費/外注費)は、将来の収益獲得に結びつくことが確実な費用の前払いであると判断し、資産計上をしておりました。当第2四半期において、**上記の現状を踏まえ、将来の一定期間にわたって償却予定であったものを、減損損失/ソフトウェア評価損として費用化**を行います。また、2023年8月期第3四半期以降に発生するソフトウェア開発に関する費用は、研究開発費として費用処理を行うことといたします。また、これらを踏まえ、業績予想の修正を行っております。

既存事業の利益改善、M&Aによるシナジー効果で  
過去最高売上、売上総利益達成へ



## CONTENTS

## 有償SO発行の概要及び取締役への貸付の概要

代表を中心に取締役3名に560,500個(株数は1個1株)を付与を行う。当社取締役及び執行役員、グループ会社取締役が、当社業績及び株価に強くコミットし、企業価値向上に努め、また、株価下落については投資家の皆様とリスクを共有するものであります。

	第5回有償SO	第6回有償SO
付与対象者及び付与株式数	社内取締役3名 168,150株	社内取締役3名 392,350株 社外取締役3名 6,000株 執行役員4名 24,000株 グループ会社取締役4名 24,000株
付与株式数合計	上記と同じ	446,350株
権利行使価格	8/27終値1,405円	8/27終値1,405円
勤務条件	あり	あり
業績条件	なし	25年8月連結売上高55億円の達成
強制行使条項	権利行使価額より60%下落した場合に、 権利行使期間末日までに権利行使価額にて全株強制行使	権利行使価額より70%下落した場合に、 権利行使期間末日までに権利行使価額にて全株強制行使
権利行使期間	24年9月18日から29年9月17日	25年10月15日から29年9月17日
オプション料	162円	8円

取締役への貸付については、適時開示の内容にあたるものではありませんが、概要を以下に記載いたします。

2021年3月の創業者急逝という不測の事態に対応すべく、現経営陣が経営を承継し、株式上場前には金融機関や親族などからの借入を起こし、当社取締役3名が株式取得を行いました。当該貸付の目的としては、この時に生じた取締役2名の借入をより長期にすることで、当社経営に集中し、経営へのコミットを強め、中長期的な当社の業績拡大に貢献するものであります。

	山田代表取締役	加藤取締役
貸付金額	8,980万円	3,060万円
資金使途	金融機関、親族からの借入に対する返済及び有償SOのオプション料の支払い	
貸付期間	貸付より20年間	
金利条件	市場金利を勘案して合理的に決定	
担保条項	①株式担保の設定及び親族による連帯債務保証 ②債務不履行時には、当社は一定の範囲内で借入人の将来の当社グループからの報酬等の一部を留保し、貸付金の弁済に充てる権利を有する	①株式担保の設定 ②同左
一括返済義務	当社役職員としての資格を失う場合に一括返済する義務を負う	
備考	8/30取締役会決議済及び 25/8有価証券報告書関連当事者取引注記に本件取引の記載を行う予定	

*CONTENTS*

Appendix (当期第3 四半期決算開示資料要約)

innovation

## 当社AIプロダクト、オーダーメイドAI開発の展開

世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から生まれた10万IDの運用実績、自社AIプロダクトとしてはトップクラスの運用実績（例：世田谷区非常勤勤怠管理システムに当社プロダクトが採用）当社のシステム開発力を活かし、他社SaaSサービスとの連携し、他社勤怠管理システムへバンドル提供、レベニューシェアで拡大（例：LINE WORKS様、Teamsprit様、ASPIT様など）、AI自社プロダクトは月額利用料(MRR)が高粗利で長期継続AIラボサービス及びオーダーメイドAI開発リード顧客からの大型システム開発受注、基幹システム開発受注

innovation

## 資本業務提携やM&Aを駆使したレガシー産業領域へのAI実装及び新サービス展開

まだまだAI実装は黎明期であり、各業種業界へのアプローチ(横展開)を進めるレガシー産業領域にリーチするリーディングプレイヤーとのM&Aや資本業務提携をテコに、当該領域へのAI実装を目指す直近のM&Aではトヨタグループ各社との顧客網を築く株式会社BEXがグループインし、自動車業界(設計、製造)領域のAI実装を目指す他業界のリーディングプレイヤーとの資本業務提携については模索中

innovation

## GPUサーバー事業の推進

独自開発したソフトウェアを搭載した暗号資産マイニング用途 及びAIGPUサーバー用途マシン、モジュール型のデータセンター の販売大量電力消費時代における電力発電事業者や土地保有者との余剰電力等の活用推進、コンテナ型データセンターの提供電力料金の低くクリーンエネルギー活用可能な海外データセンターの拡張

innovation

## M&Aによる非連続の成長

PMIの観点から、当社と同規模かそれに近いリスクテイクを伴ったM&Aを積極的に実施し、非連続の成長を複数期にわたって実現AIの既存事業領域だけでなく、周辺事業領域も視野にいれ、当社ソリューションの強化に繋げる当社独自の研究開発で生まれたAIソリューションを提供しており、当該プラットフォームが様々なビジネスの基盤となるため、グループインする会社としてのメリットも大きくM&Aを通じたグループ拡大に寄与M&Aの際に、同時に創業者の方々が当社第三者割当増資の引受け、当社グループのバリューアップに引き続き寄与し、ベクトルを合わせる

特別地方公共団体

勤務時間の適切な把握方法と管理業務の効率化を模索



画像認識プラットフォーム  
**AIZE**

顔認証サービスの提供に加え数多くのシステム開発に実績を持ち、個人情報保護にも注力



# 世田谷区

## 顔認証システムを通じて勤怠管理の効率性向上

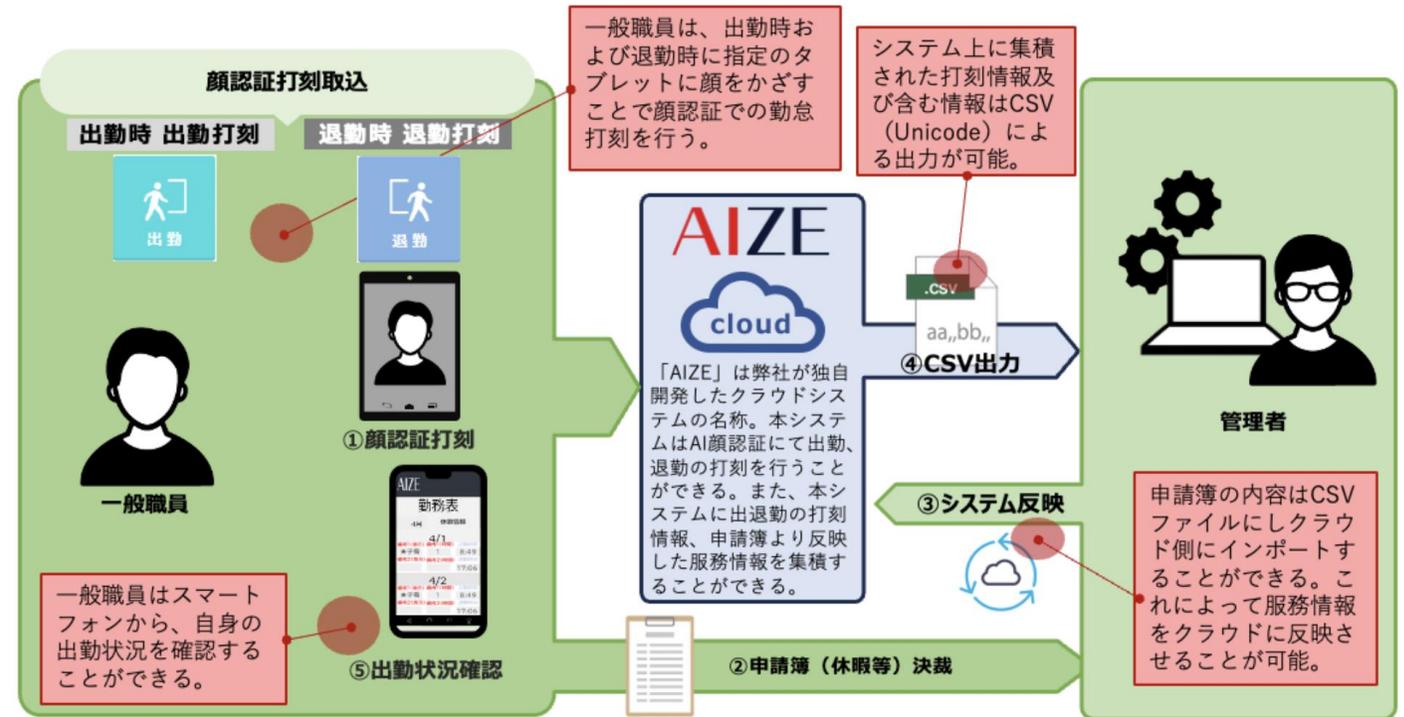
### 世田谷区の世田谷区の会計年度任用職員の出退勤管理

導入拠点：500カ所（本庁舎、保育園、学校、図書館）

対象職員数：約5000～5400人/年間

\*延べ任用人数は約6400人を予定

- 顔認証端末にはタブレットを使用
- 長期安定運用とコスト効率を考慮
- クラウド上のAIZEと連携
- 有給休暇を含めた勤怠と休暇情報の可視化UIを構築
- より効率的な勤怠管理を実現



LINE WORKS

現場で活用できる充実したビジネスチャット

~~AIZE Breath~~

顔認証とアルコールチェックを一連の動作で行い、クラウドに記録

### アルコールチェック義務化に伴う安全管理業務工数を大幅に軽減



App アルろく for LINE WORKS



アルコールチェック実施時やアルコール検知した場合にLINE WORKSへ通知



管理者のLINE WORKS画面イメージ

アルコールチェック義務化の安全管理業務工数を大幅軽減  
 アルコール検知器の課題：リアルタイム酒気帯び確認  
 LINE WORKSとの連携：確認業務を効率化・情報共有と管理効率の向上

- 安全管理業務を軽減
- なりすまし防止とデジタル化を促進
- 既存のアルコール検知器にも対応可能

# LINE WORKS

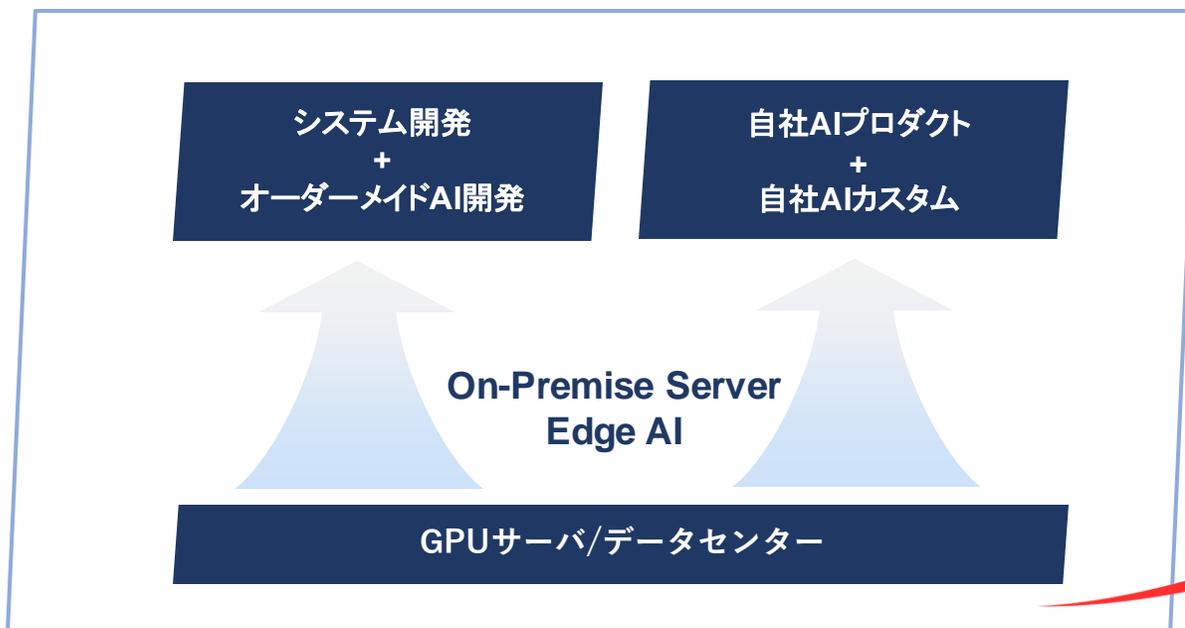
運転者のスマートフォン画面イメージ

2024年8月期まではオーダーメイドAI開発と自社AIサービスによる各種業界にアプローチして進めてきました。2025年8月期からはさらなるAIの社会実装を進めるべく、レガシー産業領域のプレイヤーと組み、市場深耕による事業展開を進めます。レガシー産業に眠るナレッジや経験は、マルチモーダルAIによってデータ化が可能となり、テクノロジー進化の豊かな土壌となりうるものです。

さらなる  
展開を  
推進中

## BEFORE

2024年8月期までの事業展開

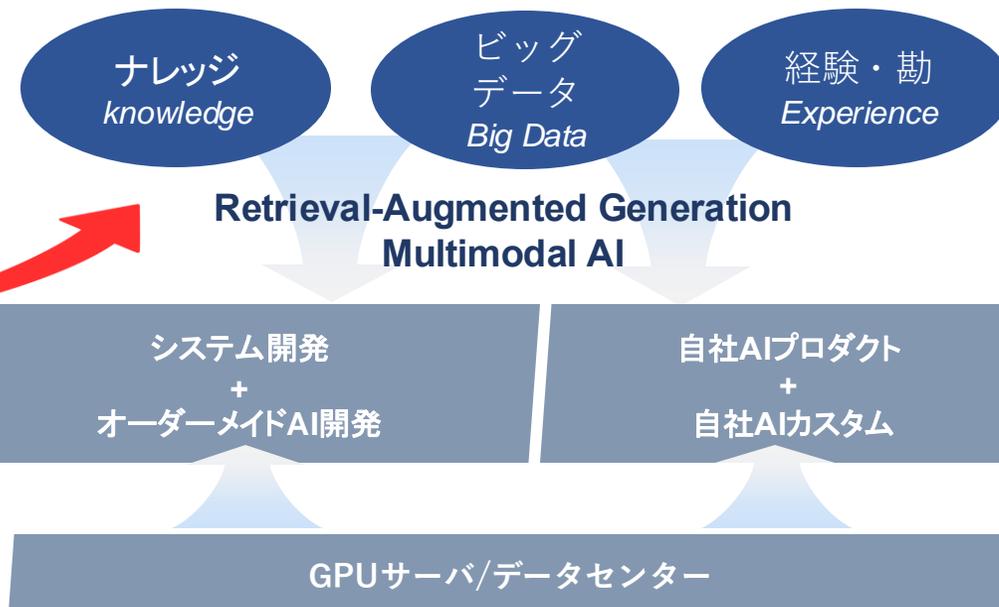


## AFTER

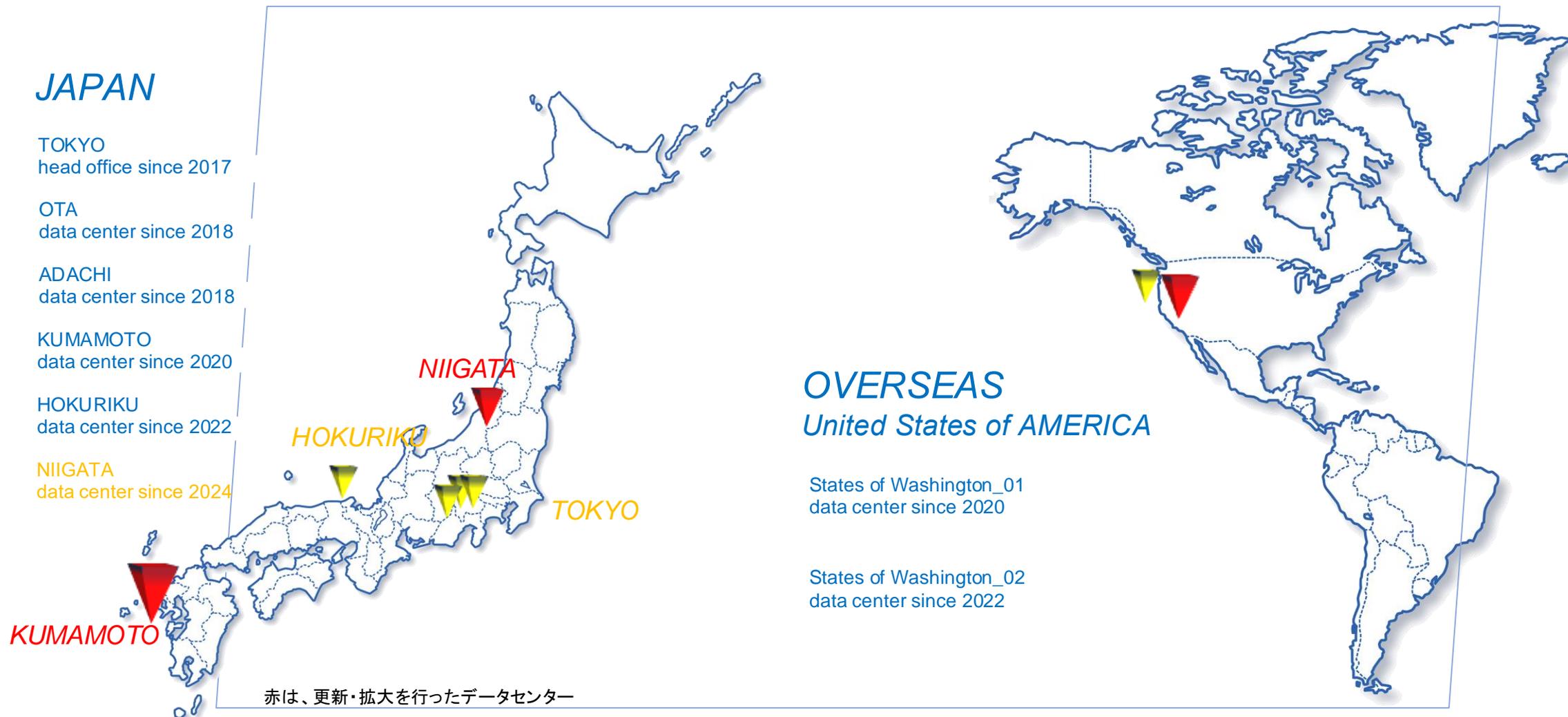
2025年8月期以降の当社戦略

## レガシー産業領域へのAI実装

- レガシー産業領域にリーチするリーディングプレイヤーとのM&Aや資本業務提携をテコに、当該領域へのAI実装を目指す
- まだまだAI実装は黎明期であり、各業種業界へのアプローチ(横展開)を進める
- 例：自動車業界(設計、製造)、医療業界(特殊な流通網、法律・規制対応)



今後の売上拡大を視野に国内外のデータセンターにおいて追加の設備投資や設置上限台数の引き上げを行っていきます。5月には新潟県に新データセンターを開設しました。今後の販売計画に合わせ、国内外で追加のデータセンターの開設やデータセンター事業者との業務提携、データセンター拡張による設置可能台数の拡大など、複数の対応を行っていきます。



### ①大型M&Aの実施及び グループ利益寄与

- ・ 小型のM&Aを繰り返してPMIにコストをかけていくのではなく、当社と同規模かそれに近いM&Aを積極的に実施をする
- ・ リスクテイクを伴ったM&Aを実施することで、非連続の成長を複数期にわたって実現する方針で、現在も複数案件を検討中
- ・ リスクは最適化し、EBITDA倍率4倍～5倍前後がターゲット。グループ利益に寄与するのれん負けしない案件を積極的に検討。

### ②AIソリューション事業 を基盤とした拡大

- ・ 当社は社員のうちエンジニアが8割を占めております。エンジニアが楽しいと思える活躍領域を当社の既存事業領域だけでなく、M&Aによる事業拡大で提供する。
- ・ AIの既存事業領域を中心にシナジーのある周辺事業領域も視野にいれることで当社ソリューションの強化に繋げる
- ・ 当社独自の研究開発で生まれた技術によるAIソリューションを提供しており、当該プラットフォームが様々なビジネスの基盤となるため、グループインする会社としてのメリットも大きくM&Aを通じたグループ拡大に寄与

### ③エクイティ調達 の効果的組み合わせによる M&A資金確保

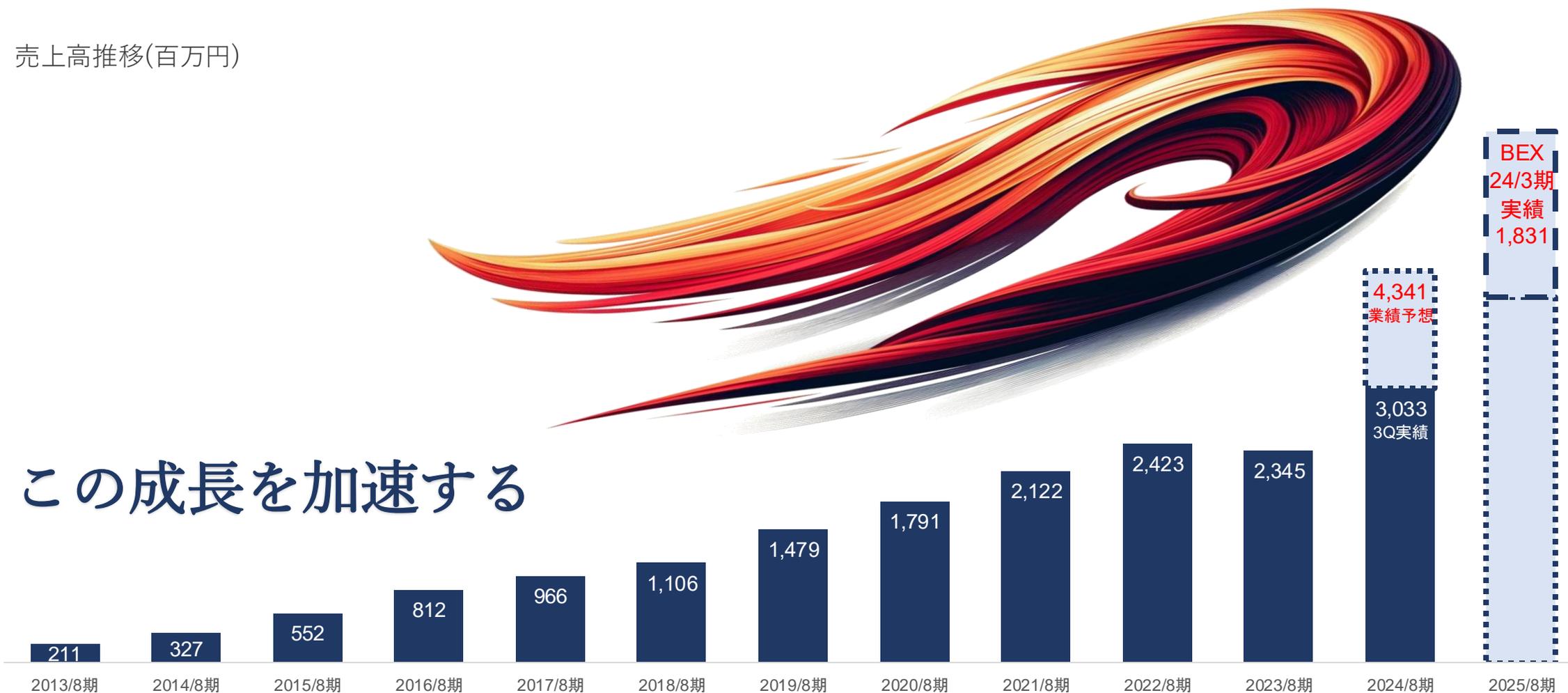
- ・ 借入調達により資本コストを最小化し、M&Aにより非連続の成長を目指す
- ・ オーガニック成長に加えて、さらにM&Aを実施し、企業価値を向上させる
- ・ 企業価値向上により希薄化を抑えた上で、公募増資ではなく、業績寄与する資本業務提携によるエクイティ調達を実施し、財務安定性の向上を定期的に図り、調達余力を確保し、M&A資金確保を行う。

### ④当社グループへの 資本参画による ベクトル合わせと 資本増強

- ・ M&Aと同時にファウンダーには当社グループの第三者割当増資を実施
- ・ ベクトルを合わせることで、当社会社規模に対して大きな規模の会社であっても、PMIとして経営の安定性とさらなる成長を図り、引き続き当社グループ価値の向上を当社とともに目指す体制を構築。
- ・ 財務安定性の向上も同時に寄与。

FY24では既存事業もオーガニックな成長を果たしました。同時にM&Aによる事業領域の拡大によって株式会社ゼロフィールド及び株式会社BEXがグループインしたことで、AI導入のインフラ整備の遅れが目立つ日本においてGPUリソースを独自に確保し、レガシー産業領域へのAI実装を目指す唯一無二のAIベンチャーとして、私たちの成長は第2フェーズを迎えています。

売上高推移(百万円)



深層学習(ディープラーニング)発明 … 2006

2008

ISLVRCで深層学習手法を駆使するトロント大圧勝 … 2012

Google社、機械学習による猫の画像認識に成功

2014

DeepMind社の囲碁AI「alphaGo」、プロ棋士に勝利 … 2016

人知を超える神の一手が打たれた!



出典 <https://www.asahi.com/articles/ASK4B5SJ4K4BUCLV00Y.html>

2017

2019

2020

2021

2022

2023

2024

OpenAI社のGPT-3.5発表 …

… 9月 東京都千代田区に株式会社トリプルアイズを設立

… 8月 社内に囲碁AIプロジェクトチーム発足

… 4月 国内初、「ブロックチェーン推進協会」設立を支援

… 7月 AI(DeepLearning)基盤となる「Deepize」をリリース

8月 測量作業向けドローン制御アプリをApp Storeにてリリース

… 9月 産業用モーターとITを融合したIoTサービスを開始

… 3月 AIによる画像認識プラットフォーム「AIZE」(アイズ)を発表

「AI囲碁世界一奪取宣言」を発表

将棋採用(商標登録)スタート

4月 囲碁AI世界大会「博思杯2019」にて4位を獲得

7月 囲碁AI大会「2019年CGFオープン」にて1位、2位独占

12月 「第11回UEC杯コンピュータ囲碁大会」にてGLOBIS-AQZが準優勝

… 3月 AIZEによる顔認証決済サービス「ヤマダPay」がスタート

… 3月 創業者・福原智急逝 山田雄一郎社長就任

… 5月 東京証券取引所グロース市場上場

… 9月 株式会社ゼロフィールドがグループイン

… 4月 画像認識プラットフォーム・AIZE、10万IDを突破

7月 株式会社BEXがグループイン

# VISION

トリプルアイズの経営理念

テクノロジーに想像力を載せる



Realize Customize Maximize  
**TRIPLEIZE**



Photo by Rika Takei